２農総試第９６－６号
令 和 ２ 年 ９ 月 １ 日

関　　係　　各　　位

愛知県農業総合試験場長
（　公　印　省　略　）

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和２年度病害虫発生予報第６号（９月）

担　　　当　環境基盤研究部病害虫防除室
電　　　話　0561-62-0085
内　　　線　471
ファックス　0561-63-7820

令和２年度病害虫発生予報第６号（９月）

令 和 ２ 年 ９ 月 １ 日
愛　　知　　県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 （穂いもち）	平年並	県全域	８月下旬の早期栽培での発生量はやや多い 中生の主要品種は穂いもちに強い ９月の降水量はほぼ平年並 ９月の気温は高い	＋ － ± －
	紋枯病	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い ９月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	トビイロウンカ	**多い**	県全域	８月下旬の発生量は多い	＋
	ツマグロヨコバイ	少ない	県全域	８月下旬の発生量は少ない	－
	コブノメイガ	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い	＋
	フタオビコヤガ	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並	±
	斑点米カメムシ類	**多い**	県全域	８月下旬の発生量は多い	＋
ダイズ	ハスモンヨトウ	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	＋ ± ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	オオタバコガ	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数はやや少ない ９月の気温は高い	± － ＋
	吸実性カメムシ類 （ミナミアオカメムシ）	**やや多い**	県全域	８月下旬の水稲でのミナミアオカメムシの発生量はやや多い	＋

・防除対策

〔イネ・紋枯病〕

７月31日発表の「イネ紋枯病情報第１号」を参照してください。

〔イネ・トビイロウンカ〕

複数の予察灯でトビイロウンカが誘殺されています。また、一部のほ場では、株元への高密度の寄生が確認されています。ほ場の状態を確認し、坪枯れの初期症状が見られたら、直ちに防除を行いましょう。詳細は８月17日発表の「令和２年度病害虫発生予察注意報第７号」を参照してください。

〔イネ・コブノメイガ〕

８月下旬の巡回調査で、県内各地で発生が確認されており、被害株率が高いほ場も見られます。中晩生品種で収穫まで期間があり、葉の食害が目立つ場合は、成虫発生ピークから７～10 日後を目安に防除しましょう。８月最終週に成虫を確認したほ場では防除適期を迎えていますので、速やかに防除しましょう。防除薬剤等は７月16日発表の「コブノメイガ情報第１号」を参照してください。

〔イネ・斑点米カメムシ類〕

８月下旬の調査におけるすくい取り調査で、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシが多く捕獲されています。本種は、斑点米産出能力が高いため、畦畔、本田での発生を確認したら、直ちに防除を行いましょう。防除薬剤については７月16日発表の「令和２年度病害虫発生予察注意報第５号」を参照してください。

〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

７月31日発表の「ハスモンヨトウ情報第１号」を参照してください。

〔ダイズ・吸実性カメムシ類〕

８月下旬に実施した巡回調査における水田及び畦畔のすくい取り調査で、ミナミアオカメムシが多く捕獲されています。水稲の収穫後、周辺のダイズほ場に移動する可能性がありますので、注意しましょう。

・留意事項

ダイズほ場で、シロイチモジヨトウの寄生が確認されています。今後の発生状況に注意しましょう。防除薬剤については、本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第１号」を参照してください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	８月下旬の発生量は少ない ９月の気温は高い	－ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ウンシュウミカン	チャノキイロアザミウマ	**やや多い**	県全域	８月下旬のイヌマキにおける発生量は平年並 ８月下旬の被害果率はやや高い 黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い	± ＋ ＋
モモ	せん孔細菌病	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い ９月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	モモハモグリガ	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	べと病	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
カキ	炭疽病	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	県全域	８月下旬の発生量はやや少ない	−
果樹共通	カメムシ類	**やや多い**	県全域	フェロモントラップ・予察灯における誘殺数は平年並からやや多い 多くの地域でヒノキ林から離脱しており、９月以降も果樹園に飛来する個体が多くなると予測	±～＋ ＋

・防除対策

〔ウンシュウミカン・チャノキイロアザミウマ〕

防除適期である成虫発生ピーク予測日を計算したところ、下表のとおりとなりました。

防除適期を迎えている地域では、コルト顆粒水和剤やディアナＷＤＧなどで防除を実施しましょう。

表　アメダス観測地点における有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武※
第６世代	9/2	8/30	8/27	8/27	9/3	9/2	8/31	8/30	9/6	8/29	8/21
第７世代	9/22	9/20	9/15	9/13	9/24	9/23	9/20	9/17	9/28	9/17	9/13
第８世代	10/26	10/20	10/10	10/3	11/2	10/27	10/17	10/9	11/2	10/14	11/6

各地のアメダス平均気温から予測（第６世代から第８世代まで）。

８月31日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

※稲武については、第４世代から第６世代までの予測。

〔モモ・せん孔細菌病〕

次作の越冬伝染源量を減らすため、秋季防除を実施しましょう。詳細は、８月17日発表の「モモせん孔細菌病情報第１号」を参照してください。

〔果樹共通・カメムシ類〕

当年世代成虫がすでにヒノキ林から離脱して果樹園へ飛来しています。園内をよく観察し、発生が多い場合は、使用回数、収穫前日数に注意してスタークル／アルバリン顆粒水溶剤（ナシ・カキ）やテルスターフロアブル（ナシ・カキ）などで防除しましょう。

・留意事項

ブドウべと病による早期落葉および次作の越冬伝染源量を減らすため、収穫後にＩＣボルドー４８Ｑなどで秋季防除を実施しましょう。また、罹病落葉が次作の第一次伝染源になるので、落葉は園外に持ち出し適切に処分しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	前年11月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
キャベツ ハクサイ ダイコン	コナガ	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	ハイマダラノメイガ	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量は平年並 ９月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨトウ	**やや多い**	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	± ＋
	シロイチモジヨトウ	**やや多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	＋ ± ＋
	オオタバコガ	**やや多い**	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	± ＋

・防除対策

〔キャベツ、ハクサイ、ダイコン・ハイマダラノメイガ〕

キャベツ、ハクサイは育苗期後半や定植時に粒剤や灌注処理剤で、ダイコンは、は種時に粒剤などで防除しましょう。定植後はトルネードエースＤＦやディアナＳＣなどで防除しましょう。

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

中齢以降の幼虫は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、分散前の若齢幼虫期に防除しましょう。キャベツ、ハクサイはアニキ乳剤やディアナＳＣなどで、野菜類では、フローバックＤＦなどで防除しましょう。

〔野菜共通・シロイチモジヨトウ〕

本日発表の「シロイチモジヨトウ情報第１号」を参照してください。

〔野菜共通・オオタバコガ〕

７月31日発表の「オオタバコガ情報第１号」を参照してください。

・留意事項

トマトやミニトマトでは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルスを媒介するタバココナジラミやトマト黄化病の病原ウイルスを媒介するコナジラミ類の防除を徹底しましょう。感染株は発見次第抜き取り、適切に処分しましょう。

イチゴでは、７月下旬の巡回調査で炭疽病の発生が多い状況でした。育苗ほで炭疽病の発生がある場合は、発病株は速やかに処分しましょう。発病株の周辺にある株は症状が無くても同様に処分しましょう。定植には発病株や発病が疑われる株は絶対に使用しないようにしましょう。７月31日発表の「令和２年度病害虫発生予察注意報第６号」を参考にしてください。

育苗ほでハダニ類の発生量が多いほ場があります。本ぽにハダニ類を持ち込まないように、必ず定植直前に防除を徹底しましょう。炭酸ガス処理（二酸化炭素くん蒸剤）をした場合、処理後の苗をハダニ類の発生した育苗ほに戻すと再度ハダニ類が寄生してしまうので、速やかに定植しましょう。

花き

・**予報内容**

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク （露地）	白さび病	平年並	平坦部	８月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
	白さび病	平年並	山間部	８月下旬の発生量は平年並 ９月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	８月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	**多い**	県全域	８月下旬の発生量はやや多い ９月の気温は高い	＋ ＋
	ハスモンヨトウ	**やや多い**	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	± ＋
	オオタバコガ	平年並	県全域	８月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 ９月の気温は高い	− ± ＋

・**防除対策**

〔キク・ハダニ類〕

コロマイト乳剤やグレーシア乳剤などで防除しましょう。

〔キク・ハスモンヨトウ〕

アニキ乳剤やプレオフロアブルなどで防除しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html）を参照してください。

参考

東海地方　１か月予報（名古屋地方気象台８月27日発表）

〈予想される向こう１か月の天候〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

向こう１か月の平均気温は、高い確率８０％です。

週別の気温は、１週目は、高い確率８０％です。２週目は、高い確率８０％です。３～４週目は、高い確率６０％です。

〈向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕　　低い　：１０％　平年並：１０％　高い：８０％
〔降水量〕　少ない：３０％　平年並：３０％　多い：４０％
〔日照時間〕少ない：４０％　平年並：３０％　多い：３０％